

特集：進化する空港アクセスと地域との共生

[空港輸送を担い、地域の暮らしを支える京成電鉄]

REPORT. II

地域の総合生活産業として 貢献する

空港輸送への投資拡大を行い、機能を強化する一方、京成電鉄はグループを挙げ、沿線住民の生活や空港利用者へのサービス提供について取り組んでいる。

現在の鉄道利用者数は増加傾向にあるが、人口減少と少子高齢化の流れの中で将来を見据え、定住人口確保や交流人口の拡大を視野に入れ、

さまざまな事業に着手している。

一例を挙げれば、東京藝術大学や和洋女子大学などの産学連携による取り組みや、

千葉中央駅周辺の開発によるまちのリノベーションを含めたにぎわいの創出、

また空港輸送のメリットを活かしたホテル事業などがあり、

沿線各エリアでさまざまな形での取り組みが行われ、

それらをつなぐことで沿線の価値が総合的に向上している。

それらはどのような考えに基づいて行われ、どのような人々と連携し、

汗を流して成り立っているのか。その取り組みを伝える。

特集：進化する空港アクセスと地域との共生

【空港輸送を担い、地域の暮らしを支える京成電鉄】

東京藝大と連携した上野エリア

京成電鉄の中期経営計画「E4プラン」では、六つの基本戦略が掲げられているが、その第一に「地域社会との共生による京成グループのプレゼンス強化」がある。京成グループの経営理念は、良質な商品やサービスを安全・快適に提供して、自社の成長と社会の発展へ寄与していくことであり、その実現のため、「沿線自治体等と連携し、沿線地域の持続的発展に資する投資をして、総合生活産業としてのプレゼンスを強化する具体策を行っていく」考えであるとして、経営統括部の黄地幸宏経営企画担当課長は説明する。

「空港アクセスを基軸に当社の業績は堅調に推移する一方で、将来的な課題である沿線の人口減少に向けて対応していく必要がある。沿線地域と連携し、その魅力向上に取り組んでいる」と黄地課長は語る。そうした取り組みの例を見ていきたい。

廃止された駅の価値を再発見し、活用している例では、旧博物館動物園駅がある。この駅は1933年に開業したが、当時、駅舎建設地が御料地であったことから昭和天皇の勅裁を受けて建設された趣深い西洋風の建物である。利用者の減少により、1997年に営業を休止し、2004年に廃駅となったが、駅舎やホームは往時の姿のまま、2018年には鉄道施設としては初めて、東京都選定歴史的建造物

に指定されている。

また、2017年、京成電鉄と東京藝術大学は「連携・協力に関する包括協定書」を締結、上野「文化の杜」新構想^{※1}に基づき、上野エリアの文化・観光振興に取り組みることになった。

「旧博物館動物園駅については社内でも活用できないか議論が行われていたものの具体化せずにいたが、東京藝大美術学部長の日比野克彦先生に建造物としての歴史的価値や美術的価値を高くご評価いただき、計画が進んだ」と、計画管理部の深井貴幸鉄道企画担当課長は語る。

2018年11月2日には旧博物館動物園駅舎リニューアル式典が行われ、日比野氏がデザインした出入口扉が公開された。以降は展覧会や音楽会など芸術イベントの開催時に、旧駅舎内の一部が一般公開されている。当時の面影を残した美しく厳かな建物は新たな息吹によって蘇り、地域のランドマークとなった。

京成電鉄には、旧博物館動物園駅以外にも、歴史的な価値を持つ駅としてもう一つ、東成田駅がある。京成電鉄発展の礎である最初の成田空港乗り入れ駅で、空港直下に乗り入れるまで「成田空港駅」の名前で空港の最寄り駅として使用されていた。駅機能縮小後、2面4線だったホームのうち1面2線は現在使用されておらず、使われていないホームには駅名標や時刻表、広告などが当時のままに残る。成田空

港輸送の史的価値があり、不定期だが、イベント等で公開されている。

地元ゆかりのアニメを駅から発信

成田山への参詣鉄道として発展した歴史があり、また成田空港アクセスを担うことから、京成電鉄は千葉エリアを沿線としている印象が強いが、都内の沿線地域には下町の風情が現在も残っており、愛着を持つ人も多い。京成電鉄でも京成線都内エリアを乗り降りできる企画乗車券「下町日和きっぷ」を販売しているが、近年は自治体との連携を強め、より深い地域との関係性を築きながら、その地独自の魅力を引き出すようとしている。

「地域社会との連携では、従前から地元へのイベントへの協賛、地元の学校の生徒の駅見学や各校での電車の安全教室開催など、主に駅単位で取り組みを行ってきた。地域に密着した取り組みだが、その一方で、地域限定で行ってきたため広く伝わりにくかった。当社のブランドイメージをアンケート調査したところ、同業他社と比べると、地域との連携や地域に対する働き掛けが弱いことが浮き彫りになった。その結果を真摯に受け止め、当社から地元の魅力あるコンテンツを積極的に発信して、沿線地域にお客さまにきていただくことが課題だと考えている」と深井課長は説明する。

沿線地域との連携としてはまず葛飾区が挙げられる。京成電鉄押上線の連続立体交差事業は現在、葛飾区内で進められている。踏切をボトルネックとした交通渋滞の解消や線路で分断された市街地の一体化とともに高架下スペースを活用した事業も検討されている。

「連続立体交差事業に伴う再開発によって、多くのファンがいる下町の雰囲気が無くなるのではないかと声も聞くが、良いものは残しつつ、新しいものを取り入れてやっていきたい」と深井課長は語る。

また、葛飾区では新たな地元の魅力を掘り起こすため、人気アニメ「キャプテン翼」の原作者・高橋陽一氏が葛飾区出身であることにちなみ、四ツ木駅や京成立石駅の周辺にキャラクターの銅像7体を設置し、少年サッカー大会を開催するなど、サッカーをテーマにしたまちおこしに取り組んでいる。京成電鉄でも四ツ木駅に「キャプテン翼」をテーマに特別装飾を行った。

「当社が検討を深めていた時期はワールドカップロシア大会が開催中で、東京オリンピック・パラリンピック



京成電鉄株式会社
経営統括部 経営企画担当課長
黄地幸宏
Yukihiko OUCHI

※1 上野地区の文化・文教施設、行政、京成電鉄など民間企業で構成する「上野『文化の杜』新構想推進会議」による国際発信戦略



西洋風の荘厳なつくりが目を引く旧博物館動物園駅



上／かつて駅天井にはめこまれた巨大な漆喰のドームには、やわらかな光の照明が輝いていた 左／リニューアルに際し、慎重に修復された天井ドーム



旧博物館動物園駅駅舎リニューアル記念式典の様子



「キャプテン翼」にちなんだ特別装飾が実施された四ツ木駅



©高橋陽一／集英社・2018 キャプテン翼製作委員会 ©高橋陽一／集英社

「世界的に人気のコンテンツなので海外のお客さまも訪れる。そうした方がSNSで発信し、さらに人が集まる。コンテンツの力の大きさを実感している」と深井課長はその効果を示す。

また、鉄道玩具「プラレール」を製造販売するタカラトミーの本社も立石に所在する。京成電鉄が110周年、「プラレール」の誕生から60周年と同時期に周年を迎えたことから、2019年には京成立石駅構内に「けいせいた

クに向けてもサッカーが盛り上がりを見せていた。そこで『キャプテン翼』をコンテンツとしたいと考え、葛飾区に相談しながらプランを進めた」（深井課長）
「アニメやキャラクターとコラボレーションした駅は他社でも例があり、当社でも思い切つてやってみようということになった」と深井課長が語るように、「キャプテン翼」をモチーフに駅の入り口や改札内のコース、階段などを大胆に装飾、列車接近メロデーにもアニメの曲を使用して、その世界観を楽しめる駅となっている。

2019年3月4日のオープニングセレモニーには高橋陽一氏のほか、幼少時から「キャプテン翼」の熱烈なファンだったというイニエスタ選手（ヴィッセル神戸）もオフィシャルサポーターとして参加した。この取り組みを行って以降、四ツ木駅の乗降人員は増加しているという。

「四ツ木駅の装飾は、当社としてはかなり思い切つた施策だったが、これをきっかけに、沿線の方々に『京成電鉄は地域活性化に熱心だ』と認識していただけるようになったのではないかと思います。沿線の自治体からも『一緒に何かできないか』とお声掛けいただくようになった」と深井課長は語る。

社内の空気も変化し、昨年5月の母の日には、市川真間駅長の発案で市川真間駅の駅舎やホームの看板を「市川ママ」と表記した遊び心あふれる取り組みを行い、話題となった。今年の桜の時期には今度は佐倉市との連携により、大々的に期間限定で「佐倉」を「桜」に変更する。京成佐倉駅は「京成桜駅」、佐倉市役所は「桜市役所」、佐倉城址公園は「桜城址公園」として



京成電鉄株式会社
計画管理部 鉄道企画担当課長
深井 貴幸
Takayuki FUKAI

特集：進化する空港アクセスと地域との共生

[空港輸送を担い、地域の暮らしを支える京成電鉄]



列車接近メロディにはアニメ「キャプテン翼」のエンディング曲「燃えてヒーロー」を採用（四ツ木駅）

地域一帯で統一イメージをつくり、盛り上げる。

広がりを見せる千葉県下の連携事業

これまでの連携事業は主に東京都内

で多く進められてきた。千葉県下でもそうした連携を推進したいとの意向を持つ京成電鉄が期待を寄せているのが、2019年3月に設置された「千葉大学・地方創生戦略研究推進プラットフォーム」である。これは千葉大学

と、京成電鉄・JR東日本千葉支社・小湊鐵道・キッコーマン・米屋・千葉銀行・ちばぎん総合研究所・JT B総合研究所の8者が連携協定を結んで立ち上げたもので、地方創生に向け、県全体の動向を踏まえた実効性のある取り組みを推進、地域活性化につなげていく。現在は定期的に会合を行い、具体策はこれから検討される。

また、これとは別に、千葉県下の大学では和洋女子大学と「連携・協力に関する包括協定書」を2019年2月に締結し、産学連携で沿線の魅力向上や文化・観光の振興、情報発信を行っている。

昨年7月～9月には、国際学科の学生65人が、学生が選定した7駅で、駅案内ボランティアを実施。他社線への乗り換えを含む電車利用や駅施設の案内、駅周辺の観光の案内を行い、ホスピタリティーや語学力を向上させた。京成電鉄としても、学生の気付きをサービス向上に活かすなど、双方に大きな効果があったという。また、和洋女子大の授業「キャリアデザイン教育」では、京成電鉄の社員が講師として現場での仕事や社会的責任などの講義を行っている。さらにスーパーマーケットを運営するグループ会社の京成ストアでは、管理栄養士を目指す健康栄養学科の学生たちと年間を通じ、四季のお弁当を共同開発して販売している。

京成電鉄では、将来を担う人材育成と地域社会への貢献を目指す

し、今後もグループを挙げ、さまざまな取り組みを行っていく。

開発事業による千葉エリアの活性化

千葉中央駅は千葉市の中心市街地に位置し、駅周辺は都市型ホテルや商業施設、映画館など京成グループが運営する施設が集積する、京成電鉄にとって重点拠点の一つである。また、JR千葉駅から千葉中央駅までは高架下の専門店街でつながり、この2駅を核としてまちが広がっている。

現在、この千葉中央駅では、駅と直結する千葉中央駅西口ビルの建て替え工事が進められている。完成は2021年秋の予定で、8階建ての複合ビルには、ホテルやオフィス、スーパーなどが入居する。さらに、駅隣接地には分譲マンションが建設中であり、まちのにぎわいの構成要素に「居住」を加え、さらなる活性化を目指している。

「このエリアで当社グループはまちの進化を目指して、にぎわいを創出してきた。鉄道の利用と同時に、沿線地域やその周辺の方々にも持続して魅力を



京成電鉄株式会社
開発事業部 賃貸開発担当課長

小田 篤
Atsushi ODA



左/千葉中央駅。駅に直結して「京成ホテルミラマーレ」がある
上/建て替え工事が進む千葉中央駅西口ビル外観イメージパース

右/構内に設置した「けいせいたていし プラレール駅」下/駅ボランティアに取り組み和洋女子大学生



高架下の活用の一つとしてコンビニエンスストアを展開。認可保育所の開設も進めている



感じていただけるよう地域を進化させていきたい」と開発事業部の小田篤貨貸開発担当課長は意気込みを見せる。

京成電鉄のマンション分譲事業では、千葉みなと、津田沼などでも展開しており、千葉中央駅周辺とともに、千葉エリアの活性化を支えている。

もその一つであり、2019年3月の「京成リッチモンドホテル東京門前仲町」（東京都江東区）開業を契機に、2021年度には東京都墨田区の錦糸町に2号店、続けて押上に3号店の開業を予定している。

「空港アクセスを利用して、成田空港利用者にもホテルをぜひ使ってほしい。開発事業は鉄道に次ぐ第二の柱。グループシナジーを最大限に発揮し、沿線地域が鉄道を含めてグループ会社と一緒に成長していくことを考えている。『E4プラン』でも上野地区や押上地区など、当社の都内沿線重点エリアにおける賃貸資産の拡充を挙げている。地域の皆さまにも喜んでいただける施設開発に努めていきたい」と小田課長は語る。

高架下や駅構内など鉄道施設のスペースを活用して、沿線住民の生活をサポートする生活サービス事業の拡充も進んでいる。

こうして沿線でのそれぞれの取り組みについて「鉄道として安全・安心の追求を大前提にした上で、沿線のどこかで常にイベントや動きがある状況をつくっていききたい」と深井課長は語り、

待機児童の増加や保育所用地の不足は沿線地域でも大きな課題であり、京成電鉄では高架下に認可保育所を誘致して、沿線の子育て環境の整備に取り組んでいる。現在は10カ所の施設を提供している。

黄地課長も「都心との空港アクセスだけでは当社線利用のお客さまが沿線のほとんどを通過してしまう。住民の方、空港アクセス利用の方、また当社線に観光目的でいらっしゃる方に向けて、関係各所と連携を深めながら、沿線活性化を図っていききたい」と語る。

また、グループ会社のコミュニティ京成は、コンビニエンスストア「ファミリーマート」を京成線や北総線の駅ナカや駅前など約50カ所で運営している。2014年からは駅構内の売店のファミリーマートへの転換も進めてきた。早朝から深夜まで活動する都市部の人々は、移動の途中でちょっとした買い物や用事を済ませたいと考えており、そうしたニーズに対応するサービス提供と言える。

好調な鉄道事業を基盤に、沿線エリアの発展や持続性のあるにぎわいづくりに貢献していく。現在の個々の事業が結び付き、さらに大きな効果をもたらすだろう。

沿線とその周辺地域の交流人口を増やすという意味では、宿泊主体型ホテル「京成リッチモンドホテル」の建設

(本記事は2020年2月3日取材時の内容です)

旧博物館動物園駅から 文化芸術を発信する

京成電鉄は東京藝術大学と連携・協力に関する包括協定の下に上野エリアにある旧博物館動物園駅を協力してリニューアルし、アートイベントを行う場所とした。京成電鉄のターミナル・京成上野駅周辺でどのような文化・芸術の発信が行われているのか、東京藝術大学の日比野克彦美術学部長に伺った。

東京藝術大学 美術学部長

日比野克彦

Katsuhiko HIBINO

アートの拠点・上野のランドマークとなる旧博物館動物園駅

1933年に開業した博物館動物園駅は、東京藝術大学の最寄り駅として学生や教職員が利用していた駅で、僕自身、学生時代に利用し個人的にも愛着を持っていた駅です。1997年の営業休止、2004年の廃止を惜しむ声も多く、いつかまた再開してほしいという活動も行われていました。

僕が藝大の学部長に就任した2016年に東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催が決定しました。成田空港からスカイライナーを利用した海外からの訪問客を迎える東京の玄関口は京成上野駅になります。京成電鉄から京成上野駅リニューアルのアートディレクションの依頼をいただいた時、僕の方からは「旧博物館動物園駅を開けられないか」とお話ししました。

上野エリアでは、上野「文化の杜」新構想という活動があって、博物館・美術館・動物園などの文化施設を含めて、上野公園を文化ゾーンとして整備していく取り組みを進めています。旧博物館動物園駅を上野公園の文化施設の一つとして位置付け、情報発信していくことを京成電鉄に提案したんです。

旧博物館動物園駅と藝大があるエリアは上野公園の西端に位置し、中心地から離れているというイメージが強くありました。けれども近年は、近接する谷根千エリアが外国人観光客や若い人たちの間で人気が高まり、回遊する人々がこの周辺にも足を運ぶようになってきました。旧博物館動物園駅のある交差点の周辺には、リニューアルオープンした旧東京音楽学校奏楽堂やリノベーションした国際子ども図書館、カフェが併設された黒田記念館などがあり、そこに人々が集まるようになって、上野「文化の杜」新構想でも、周辺地域と上野公園をつなぐ新たな文化拠点「アート・クロス」として打ち出しています。

旧博物館動物園駅のリノベーションでは、旧駅舎の扉に上野エリアの九つの文化・芸術施設をモチーフにしたデザインを取り入れました。旧博物館動物園駅と九つの文化・芸術施設、上野エリアを一つの空間として捉え、親しんでいただきたいという思いがあります。

ここにしかない土地の魅力を発信する施設に

僕は旧博物館動物園駅の構造物のリノベーション自体よりもそこで何をやるのが重要だと考えています。廃駅であっても、そこに

はかつて人々が利用していた時間や軌跡がある。博物館は時間や軌跡を集積する場所ですが、旧博物館動物園駅という建物や空間にはそれ自体に駅舎としての記憶があり、訪れた人はその記憶をたどることができる。地下の線路は使用されていて、通過する電車の音が聞こえることも大きな魅力です。今と昔がつながっているタイムトンネルのような不思議な空間で、地下に降りていけばかつての改札やホームがあり、地上に上がってくれば上野公園という文化拠点がある。こうしたものを博物館の中につくることはできないし、地上にまちの雑踏が広がっていれば上野公園とその周辺の見え方も違ってきます。

だから、旧博物館動物園駅では、そうしたものを活かしたアート展示を行っています。上野公園一帯を舞台に社会包摂をテーマにした文化芸術事業を展開するプロジェクト「UENOYES2019」では、1930年代～1950年代に世界で行われた空爆を映像化して、プロジェクションマッピングで見せました。東京も空爆された記憶を持ちます。そこに現在、走行する電車の音が聞こえる。映像と音が相まって、まさにここでなければできない展示になりました。

現在、特に大きなターミナル駅は多機能で一つのまちのようになっていますが、その一方で、旧博物館動物園駅のように土地の記憶や魅力を強く発信する駅もあります。そういう意味では、乗降がなくても駅の役割を果たしていると思います。数の論理だけでは計れない大きな価値があることを旧博物館動物園駅では発信していきたいと思っています。

京成電鉄は近年では四ツ木駅や京成立石駅など他の駅舎でも土地に由来するいろいろな仕掛けをするようになり、藝大の卒業制作に対しても「京成賞」が創設されました。今後は文化面での企業活動がより活発になっていくのではないかと期待しています。そして将来的には社内に文化事業部が設置されて、企業として文化発信をしていければ理想的だと思います。

旧博物館動物園駅については、1年のうち閉まっている日数の方が多い。京成電鉄と近隣地域との連携が必要になりますが、通年で開けられるような体制を整えていくことを期待しますね。数値化できない駅の魅力や可能性をまだまだ多く持っている場所ですから、これからもさまざまなことを発信していきたいと思っています。そして京成電鉄の皆さんには、沿線の土地の記憶ということからも、鉄道の意義を追求していただければと思います。